



本田 義裕さん
環境学研究科
地球環境科学専攻
修士課程前期2年

「持続可能な社会」に向けて、
山村からみつめ直す。

本田義裕さんは、少し遠回りをして名古屋大学にやって来た。北大で経済を学んで就職、その後、起業をめざして様々な仕事を体験、その過程で出会った人たちの多くが、「ストレス」を抱えていることに気づいて、人々を取り巻く「環境」に目を向けた。なぜ人はストレスを抱えるのか。この社会を形づくる基盤そのものを考え直す必要があるのではないか。「環境をもっと広い視野で見たい」。そんな時に出会ったのが、高野雅夫准教授の持続可能な地域づくりの取り組みだった。

入学後、高野研究室で様々なプロジェクトにかかわった。森林整備と地域経済の活性化をめざした「木の駅プロジェクト」豊田市旭地区の社会実験、今年5月豊田市足助地区に開館したエネルギー自給型「里山くらし体験館・すげの里」の支援。山村地域で地元の人たちとかがかわる中、農山村の暮らしが、ストレスの多い現代社会のあり方を変えるとかなりの確信を持った。「『持続可能な社会』に向けて重要な役割を担うのは食とエネルギー。手間がかかっても、少し煩わしくても、これを自分たちの手で賄える小さなコミュニティがいくつものであれば、人々の意識と暮らしが変わるはず」。まずは森林資源の多様な活用を考えながら、今までとは別の社会のあり方を見据えて動き始めている。



木の駅プロジェクト
山に捨てられた間伐材を「木の駅」に出荷し、山を整備するプロジェクト。運び出された間伐材は地域通貨で買い取り、木材価格の低迷で山の手入れに意欲がもてない所有者と、地域の商店の双方に、元気になってもらおうという試み。



都市と農山村の交流拠点施設「すげの里」。
愛知県産材を使った木造2階建て。太陽光パネル、薪ストーブ、薪ボイラーなどを導入した自然エネルギーを体験する施設。本田さんは、地域で採れた材を丸太のまま燃やして風呂などの給湯および床暖房に利用できるウッドボイラーの開発、普及に向けて研究をすすめています。



国立大学法人名古屋大学

〒464-8601

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院環境学研究科

TEL.052-789-3455

www.env.nagoya-u.ac.jp/

